



Data

監督・製作・脚本・撮影：ライナー・
ヴェルナー・ファスビンダー

出演：フォルカー・シュペングラー
/イングリット・カーフェン
/ゴットフリート・ヨーンエ
リーザベト・トリッセナー/
エーファ・マッテス/ギュン
ター・カウフマン/リーゼロ
ッテ・ベンパイト/イゾル
デ・バード/カール・シャイ
ト/ヴァルター・ボックマイ
ア/ペーター・コレク

■ ■ ショートコメント ■ ■

◆日本で初公開される、西ドイツの R・W・ファスビンダー監督作品たる本作を『第三世代』と2本続けて鑑賞。『第三世代』は難解だったが、“ニュー・ジャーマン・シネマ”の問題提起作として興味深く鑑賞した。しかし、男から女に性転換したエルヴィラ（フォルカー・シュペングラー）を主人公とした本作は、R・W・ファスビンダー監督自身の個人的な体験を映画化したもので、私はノーサンキュー。大柄の男のブラジャー姿を見ているだけで、いささか、うんざり！

◆37歳の若さで死亡した R・W・ファスビンダー監督がどの程度の同性愛者であったのかについて、私は全然興味がない。したがって、彼が現実に当時の伴侶として同棲していた相手であるアルミン・マイヤーが睡眠薬の過剰摂取で死亡したことを知った R・W・ファスビンダー監督は相当なショックを受け、廃人同様の状態になっただけ。そりゃそうかもしれないが、そんなネタを映画にされても・・・。

◆ちなみに、「13回の新月のある年に」というタイトルは一体ナニ？本作冒頭でそれが説明されるので、まずはそれに注目！プレスシートによると、7年おきに来る「大陰年」に、新月が13回巡る年が重なると、なす術もなく破滅する者が幾人も現れるらしい。日本でも「三隣亡」という言葉「凶日」があるが、これはそれと同じような凶日のこと・・・？なるほど。しかして、その縁起の悪い年は何年と何年に・・・？

2018 (平成30) 年12月20日記